

第5回懇話会（令和4年8月29日）における意見の概要

		主な意見（要旨）	事務局の考え方
計画前提について	市民意見聴取について	<p>今後スケジュールの中で、基本計画が固まる前に、できるだけ早い段階で市民意見のヒアリングが必要と考える。</p> <p>・マーケティングの視点からはサービス提供するターゲットを絞るということになるが、公園の場合、必ずしもターゲットを絞ることがいいとは限らない。本公園を使っていない非利用者の意見も拾いあげたほうがよい。</p>	<p>イベント実施時に来場者に対して本事業のPRと共に自由な意見を発言できるような場を設けて市民意見の聴取を実施した。（11/3実施）（資料2-3）</p> <p>勾当台公園再整備に興味のある市民に、勾当台公園の未来を考えてみようというテーマで実際に公園内を散策してもらい、現在の良いところや良くなりそうなところを掘り起こし、発表してもらおうといったワークショップを開催した。（11/5実施）（資料2-4）</p> <p>その他、インターネットアンケートの実施により、本公園を使っていない非利用者の意見について拾い出しを実施した。（11/14配信開始）（資料2-5）</p>
	公園再整備について	<p>カフェやレストランなど運営事業者（民間）の意見、要望などのヒアリングも進めた方がよい。</p> <p>事業を進める上で、先行している本庁舎の設計との調整が必要だが本庁舎との調整会議など体制により公園担当と市庁舎担当のコミュニケーションをしてもらいたい。</p>	<p>今後も引き続き行う意見交換会において、運営事業者からも意見を聞く予定。</p> <p>勾当台公園再整備基本計画策定に当たり関係課長会議を開催している。本庁舎整備担当部署だけでなく、表小路・つなぎ横丁の道路担当部署、定禅寺通活性化担当部署、まちづくりの担当部署、区の公園部署が、勾当台公園再整備の進捗及び内容の確認のほか、勾当台定禅寺通エリア関連事業の進捗や調整事項などの協議を行っている。今後も複数回会議を実施し、横の連携を密にしながら進める。</p>
基本計画について	広場の性格付け、ネーミングについて	<p>3つの広場の性格付け中で、歴史の広場の性格付けが弱い。ここを通ると歴史が伝わるような空間設計などをしてもらいたい。</p> <p>「にぎわい、いこい」という広場のネーミングに対して、「歴史」というのが違和感あり、他二つの広場のネーミングとのバランスも考えながら、この広場のキャラクターを検討してほしい。</p>	<p>広場の特性と利用のされ方、他の二つの広場（いこい、にぎわい）との差異を考慮して、「勾当台地区一帯を巡る街歩きの中でひとときの休息の場を提供し、そこに垣間見える仙台の歴史文化に触れ親しむ広場」という性格とする。このような性格付け（キャラクター）にふさわしく、二つの広場のネーミング（にぎわい、いこい）とのバランスを考え、「かたらいの広場」というネーミングとする。</p> <p>（資料3-P1）</p>
	ゾーニング、動線計画について	<p>都心でも住んでいる人はいると思うし、ウォーカブル都市としての計画もあるので中心に500m圏域（徒歩圏域）の土地利用図があった方がよい。</p>	<p>周辺地区（500m圏域）を含めた広域図で、公園全体の基本方針、バリアフリー化の方針、防災機能強化の方針、グリーンインフラ整備の方針を示すものとする。</p> <p>（資料3-P2～5）</p>
		<p>周辺とのつながりに加え公園（3つのブロック）をつなげることも大事であり、地下鉄連絡路も入れて検討する必要あり。</p>	<p>動線計画、公園再整備方針に地下通路の動線について表記し、地下鉄駅と公園とのつながりを明確にする。</p> <p>（資料3-P17）</p>
		<p>「広場とまちの軸」について、市民広場とつなぎ横丁の見目の連続性も大事だが、通行者の安全性にも配慮する必要がある。</p> <p>「つなぎ横丁」は公園外だが、周辺道路について公園側からの提言をすべきと考える。</p>	<p>にぎわいの広場の空間計画と施設配置計画のなかで「つなぎ横丁」とのつながりを検討し、動線やイベント時の繋がりを強めるための道路空間のあり方については、道路担当部署との調整した上で提案する。</p> <p>（資料3-P17）</p>
	グリーンインフラの方針について	<p>アピールする方法を付け加えてもらいたい</p>	<p>今後の整備計画、施設配置計画を踏まえた上で基本設計にて解説・案内板の設置を検討する。</p>
	<p>景観計画について</p> <p>市庁舎など周辺との一体性を確保するという観点から「いこいの広場」上段から市庁舎など周辺市街地景観の見え方や「広場とまちの軸」のつなぎ横丁から本庁舎の見え方等の分析を踏まえた景観構成を検討した方がよい。</p>	<p>公園からの周辺都市景観の見え方、周辺からの公園の見え方について分析し、その結果を再整備計画に反映する。</p> <p>（資料3-P6、7・資料3-P20、23）</p>	

		主な意見（要旨）	事務局の考え方
再整備計画検討に当たって留意すべき事項	河岸段丘について	段丘斜面の現状をみると二つの広場に分かれ、連続しているように見えない。 基本構想では段丘斜面の軸を設定しているため、仙台の性格を再現するような価値など公園における段丘の価値づけを明らかにして、それを方針化する必要がある。	平成の再整備設計の意図（いこいの広場は竜の口溪谷、歴史の広場は仙台城城壁をモチーフとした）を継承しつつ、二つの広場の段丘斜面の連続性を確保した空間構成を検討する。 （資料3-P17）
	既存施設の保全・撤去計画について	既存ステージを含め、現公園にある施設について残すもの残さないものを明確にしておく必要がある。 彫刻については、既存彫刻の評価とそれに基づき取り扱いを決めたほうが良い。 そのためには、当時の経緯、配置の考え方を整理して、位置変更など調整を行うことになると思う。 そもそも当時と公園のコンテキストが変わるのだから、新しいコンテキストに合わせて配置など検討すべき。	既存施設の老朽、利用性などの現状を把握・評価して、保全・更新・移設・撤去など施設改修の方針を定める。 彫刻については、設置の経緯、作品意図などを整理した上で、公園計画との整合をとった取り扱い（現状維持、移設など）方針を定める。 （資料3-P8～10）
	既存植栽の取り扱いについて	既存の植栽、とくに大きく成長した樹木については、切る切らないについて異論反論であるが、植物にとって良い状態、状況とするために行う（間伐、剪定など）ということを中心に検討すればよいと考える。 既存樹については、高木だけでなく視線を遮る中木などについてもどのような取り扱いにするか検討した方がよい。	現況把握に基づき再整備後の樹木管理も含めた計画を検討する。（資料3-P11～13） なお、樹木については、今後の基本設計での基礎資料となる樹種、位置、樹高、幹周などの調査を実施する予定。
	芝生広場の導入について いこいの広場	いこいの広場で芝生広場化の考え方があるが、現在様々なイベント利用（テントの設置）がされているため、それらが制約されないよう留意してほしい。 （イベント空間が確保できなくなるなら、その代替を確保してほしい。）	既往のイベント時のテント設置位置、規模を踏まえた芝生広場の規模、配置形態を検討する。 （資料3-P24）
		芝生広場の勾当台通沿いは、子どもの飛び出し防止や車の騒音に配慮して植栽などバッファースペースを確保した方がよい。	左記の点に配慮した芝生広場の計画を検討する。 （資料3-P27）
	施設改修計画について ステージ	二つの既存ステージ（にぎわいの広場と野外ステージ）については屋根や反響板もでてくると思うが、「何もやっていない時」のことを考えたデザインが大事。	ステージの使われ方、立地環境、周辺との関係などに配慮して、ステージの位置、規模、デザインの基本的方向性を提案する。 （資料3-P19、20・資料3-P25、26）
	水施設	勾当台公園の緑の保全だけでなく、水に親しめる施設の導入を検討してもらいたい。	「かたらいの広場」と「いこいの広場」の流れ、水面に近寄れる設えを検討する。 （資料3-P30）
照明	崖線だけの演出照明の考えが出されているが、周辺ビルなども含めた公園全体の「地あかり」のデザインについて検討すべき。	基本設計にて行う照明計画の基礎資料として園内及び周辺道路の現況を把握する。 （資料3-P14～16）	